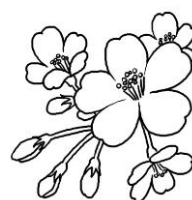




やよい
弥生
3月



令和7年3月

長岡京市立長岡第六小学校

図書通信

「自分の居場所」になる本を見つけよう！

ながろくしょう にんき こしょう さくしゃ つじむら みづき さく がっこう ぶたい さくひん
長六小でも人気の「かがみの孤城」の作者：辻村深月さん。デビュー作から学校を舞台にした作品
を書くことが多かった辻村さん。「かがみの孤城」では、学校に行かないという選択をした不登校
の子を主人公にすることで、より深く「学校」ってなんなんだろうと考えることができるかと思
ったそうです。辻村さんは、子どもの頃からミステリーが大好きで、作中の謎を知りたいとワクワク
しながらページをめくっていたので、いつも、読者が「謎の真相を知りたい」「続きが気になる」
と思ってもらえることを大事にしています。だからこの小説でも「本は苦手だったけど1冊最後まで読み切れた」と
いう小中学生からの感想が、すごくうれしかったです。1冊最後まで読んだ経験が自信となって、さらに読書の世界
を広げるきっかけになるといいなと思います。また周囲に自分を理解してくれるような大人がいないように思ったり、
友達とけんかして明日学校に行くのどうしよう、となった時も、本を開いた向こう側には、自分を理解してくれている
と感じる言葉に出会えたり、この本を好きな仲間がどこかにいると思えた。『かがみの孤城』も、読んでいる間だけ
は、読者が本の中の主人公たちと友達になってそこを居場所だと思ってもらえたらこんなに嬉しいことはありません。
誰かにとつての「はじめてのミステリー」「はじめて自分で選んだ小説」になったら、とても幸せです。と語ってお
られます。（2022/4/4 好書好日より <https://book.asahi.com/article/14578808>）
みなさんも、これからもたくさん本と出逢って「自分の居場所」になる本を見つけてくださいね。



今年度の図書室利用状況



学年別ベストリーダー

1・2・3年			4・5・6年		
がくねん 学年	かしだはさう 貸出冊数	り 1人あたりの平均貸出数	がくねん 学年	かしだはさう 貸出冊数	り 1人あたりの平均貸出数
1年	2,512冊	68冊	4年	1,391冊	35冊
2年	3,253冊	64冊	5年	2,174冊	37冊
3年	4,209冊	90冊	6年	1,586冊	34冊
がくねん 3学年合計	9,974冊	74冊	がくねん 3学年合計	5,151冊	35冊
ぜんがくねん 全学年総貸出冊数			ぜんがくねん 全学年平均貸出冊数		
15,125冊			55冊		

※ 1年生は、貸出冊数が一日一冊ずつです。

がくねん 学年	なまえ 名前	さつすう 冊数
1年	いわた さん	132冊
2年	でんたに 傳谷 さん	105冊
3年	にのみや 二宮 さん	577冊
4年	やぎゅう 柳生 さん	139冊
5年	たにぐち 谷口 さん	384冊
6年	おおた 太田 さん	169冊

（2月22日時点です）

今年1年間（2月22日時点）の図書室利用状況を調べました。現在の累計貸出冊数は、15,125冊。一人あたりの一年間の平均貸出冊数は55冊でした。3年生は、毎日休み時間に図書室を利用してくれる子がたくさんいましたね。1年間で300冊以上借りた人は、3年生が2人、5年生が2人。100冊以上借りた人が、全校で23人いました。毎週図書のない学年は、図書係さんが、積極的に学級貸出を利用してくれました。みんなたくさん図書室を利用してくれてありがとう！6年生のみなさんは、中学に行っても学校の図書室や図書館を利用して、たくさんの本と出逢ってくださいね！



今月のおすすめ本



『きみの行く道』 ドクター・スース(作) いとうひろみ(訳) 〈河出書房新社〉

おめでとう。今日という日は、まったくきみのものです。

きみのゆくての、あの大きな世界におかっていざ、旅立ち!

子どもから大人まで、新しい人生をふみだそうという人に贈るユーモアと冒険に満ちた物語。
現代のマザーグースといわれるスース博士の、人生のヒントになる作品です。



『君たちは どう生きるか』 吉野 源三郎 〈マガジンハウス〉

1937年に出版されて以来、数多くの人に読み継がれてきた、吉野源三郎さんの名作。人間としてどう生きればいいのか、楽しく読んでいううちに自然と考えるように書かれた本書は、子どもから大人たちにも共感をよんできました。勇気、いじめ、貧困、格差、教養。昔も今も変わらない人生のテーマに真摯に向き合う主人公のコペル君と叔父さん。二人の姿勢には、数多くの生き方の指針となる言葉が示されています。一度手にとって、人生を見つめ直すきっかけにしてほしい一冊です。



『ズッコケ文化祭事件』 那須 正幹(作) 〈ポプラ社〉

おなじみ『ズッコケ三人組』シリーズ。ズッコケ三人組のクラスが文化祭で劇をすることになり、自分が主役を演じたいハチベエは、町に住む童話作家、新谷敬三に脚本を依頼する。依頼を受けた彼は、「仲良しきょうだいとトンカチ山の大魔王」という脚本を書く。ハチベエたち三人をモデルにした三兄弟が、魔王にさらわれた母親を勇気と知恵で助け出す話だ。しかし、クラスの中心メンバーたちが、「そんな話つまらない」と言い出して…辻村深月さんが小学生の頃図書館で借りて読んで、泣きそうになるほど感動したという作品。ぜひ読んでみてください!



『かがみの孤城』 辻村深月 〈ポプラ社〉

学校での居場所をなくし、閉じこもっていた“こころ”の目の前で、ある日突然部屋の鏡が光りはじめた。輝く鏡をくぐりぬけた先にあったのは、城のような建物。そこにはちょうどころと似た境遇の7人が集められていた。なぜこの7人が、なぜこの場所に? 城に隠された鍵を探すことで願いが叶えられるというが……。生きづらさを感じているすべての人に贈る物語です。

《図書室からのお願い》



本の返却は、1～5年生は、3月7日(金)まで。

6年生は、2月28日(金)まで!

学級文庫もかならず期限までに返してください!

3月は図書室の本の蔵書点検と本だなの整理をしますので、春休みの貸し出しはありません。みなさんのクラスやおうちに、図書室の本がまぎれていないかもう一度確認しておいてください!!

3月 図書室カレンダー

月	火	水	木	金
3/3	4	5	6	7
10	11	12	13	14
17	18	19	20	21
24	25	26	27	28

佐々木先生がいる日